上之坊だより

令和４年2月24日
第93号
福山市大門町大門325
電話（084）941－1031
fax（084）941－1168

弘法大師聖語抄

一切の文字は皆是れ心より出づる
心は即ち是れ本　文字は是れ末なり

弘法大師を祖師と仰ぐ真言宗ですが、この真言宗の「真言」とはサンスクリット語のお経の言葉を真言と言い、その言葉を訳さず、そのまま唱えることを「真言を唱える」と言います。そこから、真言宗という名前になったと言われています。

しかし、右の文章でお大師様は、「心は内に在って、それが外に言葉や文字として現れてくる。根幹は心の方で、言葉や文字は末葉である」と書かれています。

日常でも心のこもらない空虚な表面だけの言葉では、決して相手の心に届くはずがありません。

真言宗は、真（まこと）の心から発した声を、仏様の言葉であるサンスクリット語（梵語）そのままに発音をし、言葉や文字を通して、仏さまの言葉が周囲すべてに到達するように唱えます。

真言を唱える時は、手に印を結び、心で仏様の境地を観想いたします。悟りの境地に達する事は本来は難しくとも、自分が仏さまとなって、仏さまの言葉を周囲に伝えていきます。

心のこもった真言は、たとえ難解であっても、誰かの心に仏さまの種を蒔き、いつか人生を変える力となっていくのです。

真明寺の住職変更

上之坊のすぐ近くに真明寺があり、上之坊とともに明治以前から二ヶ寺は兼務されておりました。

今の住職は約五十年前の昭和四十六年から清純が勤めてまいりました。しかし、年齢も九十二歳と高齢になり、介護の必要も出ているため、今年で引退をすることになりました。

なお、後継者については、当分の間は清純の孫の清澄が就任いたしますが、実務はこれまでどおり、上之坊住職が勤めてまいります。

真明寺の総代等の人選も終了し、これから住職変更の手続きを進めてまいります。

真言宗の基礎知識（その四十六）（高野山）

弘法大師には全国各地に伝説があります。その中のいくつかは史実に基づいていますが、中には弘法大師の名前を拝借して権威付けている場合も少なくありません。

しかし、高野山奥之院は実際にお大師さまのご廟があり、いまでも香煙が絶える日はありません。

場所は紀州（和歌山県）の北嶺で、標高九百メートルの山々の中にあって、盆地となった特異な環境にあります。ひとたび高野山の中に入れば麓（ふもと）の景色を眺める事はできません。総門である大門から西に遠望することも出来ますが、高野山の中では杉と山で閉ざされた空間だけが広がっています。

以前は夏場は大阪の小学校の林間学校として賑わっていましたが、都会より十度以上涼しい自然に恵まれた環境は魅力的であったのかもしれません。

しかし、今の季節ですと積雪の日も多く、夜は零下十度をさらに下回り、新月の空にはいっぱいの星が輝いて静寂の時間が続きます。

今でも歩いて登るのは大変なこの地に、千二百年以上の昔に弘法大師はなぜお寺を建てられたのでしょうか。

変貌する風景

コロナ禍や社会情勢の変化によって、昔からの習慣が少しずつ変化しています。

これからも家庭や家族関係が変わっていけば、より顕著に変貌するように思います。

お寺の関係する法事やお葬式などでも親戚一同が集まる事が減って、少人数になったと感じます。

携帯電話の普及で、会えなくても交流は可能かもしれませんが、孤立化も深刻になっているようにも感じます。

どうすれば人と人が繋がり支えあえるのでしょうか。

もっと他人の痛みに敏感になる方法は見つからないのでしょうか。

今後の上之坊行事について

コロナ禍オミクロン株の猛威が続いております。今月二十日までだった蔓延防止重点措置が再度延長され、三月に入っても続くようで患者の人数は高止まりしたままです。

二月二十七日開催予定の玄冬会、三月八日からの四国参拝（愛媛）および三月十九日予定の得度式はすべて開催が難しくなりました。今後急速にコロナ禍が改善された場合でも準備が整わないため、延期にせざるを得ない状況です。四国巡拝は十一月に延期をし、香川県の予定だった札所を愛媛県にして催行できればと存じます。玄冬会と得度式はこれも秋以降に延期をしてまいります。

そのほかの三月末までは法事や毎月の護摩祈願は感染に気をつけて実施をしてまいります。

なお、一月三十日の予定であった総代・世話方会も延期となりましたが、状況が好転すれば、四月十六日（土）の午後一時半に実施いたします。なお当日は天候がよければ午前九時から十二時まで有志による境内整備活動も計画されておりますので、ご奉仕が可能な方は是非ご連絡をお願いします。

また、五月十日の真明寺例祭は役員のみで実施をし、五月十一日から十二日予定の高野山参拝は二年流会していますので、今回こそは状況が許せば催行を考えております。それ以降の七月のお施餓鬼や八月の盆棚経などについても次号でご案内をいたします。

次の上之坊だよりは高野山の団参が出来そうな場合は四月中旬に、難しい場合は六月下旬に作成予定です。これからもコロナ感染の状況で変更もあると存じますが、ご健康に留意いただき、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

四月十六日（土）寺内整備作業

上之坊の境内整備作業を四月十六日午前九時から十二時までいたします。主な整備内容は、

①旧ユギ塔の解体撤去作業
②ユギ塔周辺の清掃と伐採
③奥の院・厄除参道の整備
④小川安六氏胸像の設置

となっております。ご都合のつく方はご援助よろしくお願いいたします。汚れてもよい服装で軍手などご持参でお越しください。作業終了後にお弁当を用意いたします。

総代世話方会開催

一月三十日開催できなかった総代世話方会を開催します。

四月十六日（土）午後一時半からです。詳しくは手紙等でご案内をいたします。

厄除星祭を終えて

去る二月五日に星祭りを形を変えて実施しました。昨年は午前一回と午後一回の二回に分けて実施しましたが、今回はコロナの第六波の大流行が今までにない規模で迫ってきました。直前の一月三十日に総代会を開催して、行事内容をご審議いただき（総代世話方会は開催ができませんでした）その中で、午前二回、九時半と十一時半から、午後も二回、十三時半と十五時半からの、計四回に分かれて少人数で法会を実施することになりました。お札をお申し込みでないかたのご出席も考慮をし、出来るだけ一時半以外の三回に電話にてご参拝の時間を調整をいたしました。時間の調整の中で事後に受け取るように変更される方も増えたため、少人数となりました。

一日四回の護摩祈願は、体と声が続くか心配でした。実際に四座目の法要が終ったときは、声は枯れていましたが、逆に達成感は例年の中で一番あったと感じました。いつもの時間以上に長くお手伝いいただいた関係寺院や奉行の大森氏、朝八時前から夜の六時までずっとご一緒いただいた総代長様や朝も昼も準備にお越しいただいた副総代長様など、多くの総代世話方の皆様のご援助を強く感じることができました。深く感謝申し上げます。

成田山や川崎大師などの大寺では一日に何回も護摩を焚くのですが準備や後片付けに人が必要で難しいこともあります。しかし、今回はお手伝いいただく方も確保でき、いずれの回も加持する参拝者は十人から十五人で終わり安堵しております。お参りの方で体調のご変化があった方も無かったようで、無事成満出来ましたことをご報告いたします。

毎月開催息災護摩祈願

平成三十年より毎月第四土曜日の午後一時半から、息災護摩祈願法会を実施しております。

日ごろから心配事が重なる人や、心機一転を願う人、厄除けや無事を祈りたい時などには、毎月行なわれている護摩祈願にお参りください。護摩の炎で禍（わざわい）を取り祓う祈願ができます。

この護摩祈願のご本尊さまは上之坊のご本尊である薬師如来さまで、薬師如来は現世の仏として、太陽の出る東方から、現在の私達の悩みや苦しみを救う仏さまです。

お参拝されれば、授戒作法をして、本堂道場に入っていただき護摩の炎をすぐ身近に接していただけます。また、祈願にあわせて多宝塔の特別内拝がありますので、ご案内の時間を含めて午後三時終了となります。

仏教用語解説

金輪際（こんりんざい）

「どんなことがあっても」というのが金輪際（こんりんざい）の意味ですが、仏教の世界観では、大地の下には三つの層があり、上の層が金輪、つぎが水輪で最後が風輪とあり、これで大地を支えているそうです。

この「金輪際」はその金輪と水輪の境界線を指し、地上のわれわれからすれば、物事の限界ですべての行き着く終着のところを意味します。

現在の科学でも、地中には三つの層があり、上のマントルは固体で、その下のコア外核は液体だそうですが、いずれも我々の想像を遥かに超えた高密度の物質で出来ているそうです。

私達の知っている世界から遠く離れたところに「金輪際」が存在するようですので、あまり軽々しく多く使う言葉ではなさそうです。